



# メロス通信 不定期便

## “Club Gyaross”メンバーより「生活保護制度」を学ぶ声

～今の生活保護制度では希望はもてないからこそ、医療のケアの視点が必要とされる～

自分も生活保護になるかもしれないと学生のときに感じたことがありました。そうっても『コーヒーが飲めたり、“きっと生活を立て直せる”という希望』があれば、そう悪い状況ではないかもしれないと思いました。

その時は生活保護を受けるきっかけは単に失業としか考えていませんでした。実際には健康上の理由が多く、それに加えて、制度としての使用のしにくさ・偏見などの社会からの圧もある現状を考えると『そのような状態で希望を持つことは困難だろう』と感じています。

今回保護のしおりという、生活保護受給者に渡される冊子を初めて見ました。制度として成立させるための必要な規則で重要だとも思いましたが、“保護”になっているのかと疑問に思いました。危機的な状況に陥っている人に渡すものとしてはもっと配慮が必要になってくるのではないかと思います。そもそも**生活保護はもっとケアであるべきなのではないか**と感じました。

今回特に印象的だったのは、生活保護制度の運用に関して県からの指導があるということでした。市も板挟みの中で運用しているということなのだと感じました。そうすると、生活保護の業務に取り組む人たちへの配慮も物凄く欠かせないのではないかと思います。資料の中には現場の人員不足という文言もありました。**ケアを成立させている医療機関の持っている視点が、もしかしたら生活保護の現場でも必要とされるのではないか**と感じています。



## 身寄りなし低所得高齢者の人権について

高齢で生活保護を利用する身寄りのないAさんから困りごとの相談がありました。

電気料金や物価高騰の影響もあり家計が追いつかない、食べることもままならず私たちに相談してきたのです。Aさんは長年当院に通う間に夫が亡くなり、身体機能の低下と認知症のため金銭管理ができなくなっていたのです。

Aさんは「死んだほうがええ。朝、目が覚めると今日も生きちゃった、こんな風になって情けないって思うの」とよく泣きます。老いることは罪でも恥かしいことでもありません。認知症高齢者が自分を心底情けなく感じる前に支援できる私たちがりたいです。Aさんの「あんた達がようやってくれるから、もうちょっと私もがんばらんといけん、ありがとうね」という言葉を聞くとよりいっそうその気持ちは強くなります。

Aさんは施設入居を希望しましたが、身寄りのないAさんが入る施設は少なく、保証人が不要で安価な料金の施設の一部には安心して過ごせる施設基準を満たしていないことを知り、とても驚きました。この問題について、市との交渉で一般的とされる施設入所への保証人要件が実情にそぐわず多数の高齢者の人権を踏みにじっていることを訴えました。現状は調査するが民間の事業者への指導は難しいというのが答えでした。

Aさんはいま安心して過ごせる施設待ちです。身寄りがなくても安心して過ごせる世の中であってほしい。何とかならないのか真剣に悩んでいるところです。

### 経営困難のなか地域福祉室が挑むこと

診療報酬の改定により全国どの医療機関も経営が逼迫しています。私たちももれなく冬の賞与は減額となってしまいましたが、私たちより経営困難な医療機関はたくさんあります。

収益を生まない地域福祉室ですがソーシャルワーク機能が各部署・事業所の運営に役立ちますよう自己研鑽に努めてまいります。

みなさんが大切にしているひとり一人のいのちを、みんなで、あきらめなためです。ご要望やお気づきがあれば是非お聞かせください。

外来カンファレンスは毎週火～金曜日14時からに変更しました。どなたでもお気軽にご参加ください。

良いお年を  
お迎え下さい

